

【論文の書き方。卒論の榎田的条件。ほか。】

榎田美雄(かしだ よしお)

kashida@ias.tokushima-u.ac.jp

【0. 卒論の要件と具体的提言について = 卒論提出1年9ヶ月前のレクチャー =】

卒論の要件等について

1. 卒論の目的
 - 1) 知識量の確認
 - 2) 判断力の確認 大学卒業学位(学士)の根拠
2. 卒論の目的からみた卒論の要件
 - 1) 文献紹介と引用の適切さ
 - 2) 文献への評価・判断の適切さ
3. よくある問題点
 - 1) 複数の構想の混在
 - 2) 先行業績に対する評価の不在
4. とるべき方針
 - 1) 立場性ある文献収集
 - 2) 「問い-答え」の可能性をぎりぎりまで考える もっとも検討すべきことを検討する

具体的提言

- 1) 頭をつくる(イメージをつくる。周辺情報の大量インプットと日程確保)
- 2) くだらないことをいわない(似たことを言っても、微妙な質的違いが大切)
- 3) 策をつくして啓示を待つ(天使が降りてくるのを待つ。お風呂、散歩等・)

【1. 論文の書き方(作業の実際) = 卒論提出1年3ヶ月前のレクチャー:ゼミ生向=】

- 1) 自分はなにに関心を持っているのか。
 - 2) 自分の関心は、学術的関心といえるか(学会で価値がある研究か)
例:理論研究なのか、学史研究なのか、
社会学なのか、学際研究なのか、
先行研究はあるのか、だれのどの論文が重要なのか、
 - 3) 自分の今の実力で扱えるテーマか。扱える範囲はどこまでか。
扱える範囲で、自分は満足するか、学術的価値はあるか。
(「1 2 3」 「1 2 3」 1.....循環)
 - 4) 可能なら、この段階で人に構想を聞いてもらう。研究仲間を募る。
- (2) 議論の大枠を構想し、それを複数の作業に分割し、実施する(1週間から数ヶ月)
- 1) モデルになる論文を探す(他テーマでも可)
これまで読んできたもの、関心をもって集めて来たものを机の周りに集めて、好きなもの・感動したものを読み直す。2度目だから頭にはいる。
 - 2) モデル論文の真似をして、議論の大枠を構想する。
「ポケットファイルと紙」(榎田はこの方式)あるいはノートを準備して、日々の構想メモをとにかく、まとめる。5分の4は無駄になるが、それに構わず集める。読み直す。時々大きな紙にまとめ直す。
 - 3) 作業を定める
例:先行研究批判(基本:存在する場合は必ずする)
 - ・先行研究同士の齟齬を整理する
 - ・先行研究と事実の不一致、事実に対する説明不足の点を確認する実証研究にしる、理論研究にしる
 - ・スケジュール表をつくって作業する
 - ・行くところ、会う人には、早めに予約を入れる。
 - ・自分を「仕事」に追い込む体制を作る。

例：先行研究の2つのまとめ方

- ・先行研究史としてまとめる（データが弱い場合）
- ・先行研究の欠落点の確認（データが強い場合）

4) 関連論文を読む

日本語なら、1日に一本は論文が読めるはず。構想に1ヶ月かけるなら、休日があっても、20本は読める。

芋蔓式文献検索を基本に、データベースによる文献検索も必要に応じて行う。

(3) 中間発表する。自分の論文の売り(アピールポイント)は何かを把握する。(1日)

- 1) 作業が一段落した時点で、中間発表をする。
できれば、発表内容の概要を参加者にまえて配布しておく。そうでないと、データに基づく反論を受けることができない。
- 2) 聞いてくれる人に利益があるよう、基本データ(文献表等)は印字配布する。
それは、自分にとってもよい指針となる。
- 3) 発表会のあとの、食事会や飲み会でこそ本音(貴重な意見)が聞ける。その機会を積極的に作るようにする(批判的意見は、親密な場でしか聞けない)。
- 4) チャンスがあれば、
「(新)構想」「中間発表」「(新新)構想」「中間発表」を繰り返す。
データ分析がうまくいかない時：文献研究でオリジナリティを出すしかない。

(4) 書く。締め切りに遅れない。(1週間から数ヶ月)

- 1) 文献表の作成、誤字脱字チェック、目次・索引・資料作り、も並行して行う。
後進が続きやすいようにすることが、知的生産の重要条件だ。
- 2) 引用の規範を守る。他人の著作権を守りつつ、自分の著作権も主張する。
引用注よりも、文献表方式の方が望ましい。原著までなるべく押さえる。
- 3) 謝辞は一般人に対してお礼をしたいときに書く。研究者に対しては、特別のことがない限り、不要。謝辞よりも、学問的に正当に評価し、引用・言及することの方が、相手はよろこぶ。
- 4) 発表にふさわしい場所を考える。学会員でなくても投稿できる雑誌は多い。

(補) 調べれば分かることについては、調べる。英和辞典、外来語辞典、いろんな辞典。

例：リーダーズ英和辞典(研究社)：英語で論文を読むとき役立つ。所有が望ましい。
ランダムハウス英和大辞典(小学館)：新英和大辞典(研究社)より新しい。
日本大百科全書(小学館)：CD-ROM版がある。
コンサイス外来語辞典(三省堂)：人名も載っている、カタカナで引ける。
コンサイス20世紀思想辞典(三省堂)：言語行為論等を熟読。
現代哲学事典(講談社)：講談社現代新書、所有が望ましい。
哲学事典(平凡社)：図書館で利用。英語論文中の簡単なラテン語も引ける。
社会学事典(弘文堂)：旧版の末尾の分野別文献目録が使える。
社会学の古典各種：「訳者解説」がついている。

【2. 日常生活の注意 - 社会学は言語だ -】

論文の書き方の続きとして

社会学は言語だ。辞書と教師が必要。それ以上に「実地で話すこと」が必要。
友達との日常会話として、「社会学」を話そう。

【3. 卒論の櫻田的条件 - 枚数、欧文論文等 -】

- 1) 量：原稿用紙換算で..... 100枚以上(文献表を含んで可)。
- 2) 欧文論文を、1本以上参照していること。
- 3) 先行研究を正しく、乗り越えていること。
- 4) オリジナリティがあること。
- 5) 文献表が整っていること。